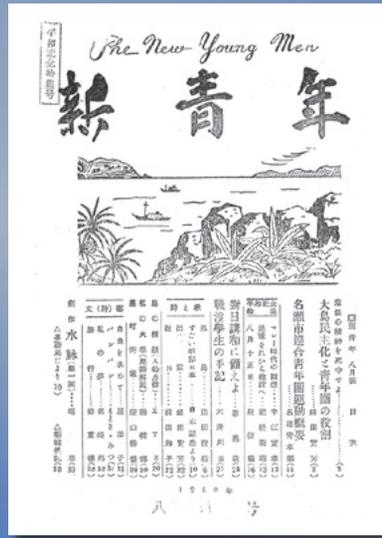


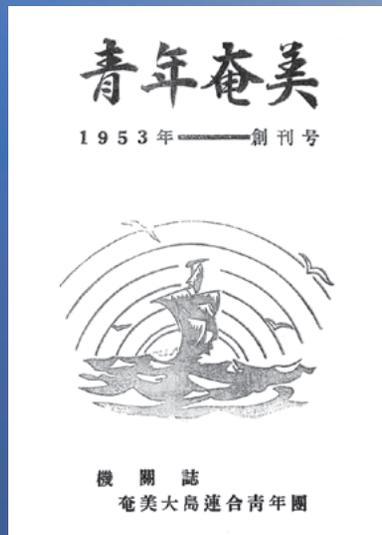
編集復刻版 編・解説 山城千秋 (熊本大学) ・農中至 (鹿児島大学)

占領期 奄美・沖縄の青年団資料集

『新青年』第四号 (一九五〇年八月)



『青年奄美』創刊号 (一九五三年二月)



『沖縄青年』創刊号 (一九四九年六月)



『青年隊だより』創刊号 (一九六〇年二月)

推薦 上野景三・平良研一・崎田かづ子

揃定価 110,000円

(揃本体100,000円+税10%)

ISBN 978-4-8350-8529-6

収録内容・体裁

- 第1巻 『新青年』 1 (B5判)
 - 第2巻 『新青年』 2・『青年奄美』 (B5判)
 - 第3巻 『沖縄青年』 1 (B5判)
 - 第4巻 『沖縄青年』 2・『青年隊だより』 (B4判)
 - 付録 『十周年記念 沖縄県青年団史』 (A5判)
- 以上すべて上製/クロス装/総約1,900頁

別冊 解説・総目次・索引
A5判/並製/総210頁

全4巻・付録1・別冊1

米軍占領下の奄美・沖縄における青年団の5つの機関誌・紙を集成!!
祖国復帰運動や移動・移民の実態など、青年たちの足跡を一望する

『占領期奄美・沖縄の青年団資料集』 刊行の辞

編・解説

山城千秋（熊本大学教授）

農中 至（鹿児島大学准教授）

本資料集は、米軍占領期における奄美および沖縄群島の青年団機関誌・紙を収録したものである。奄美・沖縄の戦後史の特徴は、青年団運動と不可分の関係にあることである。戦後の奄美・沖縄において、戦災からの郷土復興をはじめ、遺骨収拾運動、祭事・郷土芸能の再生、そして祖国復帰運動の核を担ったのは青年たちであった。奄美・沖縄の青年団が同時代に先導した祖国復帰運動は、米軍支配と対峙し、平和や人権、自由と抑圧にかかわる人間解放をめざした運動としてひととき異彩を放つ。熾烈な復帰運動を展開する青年団員の精神的支柱とされたのが、機関誌・紙である。本資料集全4巻では、奄美大島連合青年団『新青年』（一九五〇～一九五三年）および『青年奄美』（一九五三年）、沖縄青年連合会『沖縄青年』（一九四九～一九五三年）、沖縄県青年団協議会『沖縄青年』（一九五七～一九六〇年）、沖縄産業開発青年協会『青年隊だより』（一九六〇～一九六一年）の各機関誌・紙のほかに、付録として沖縄県青年団協議会『十周年記念 沖縄県青年団史』（一九六一年）を復刻する。これらは主に群島別分割統治時代に発刊されたものであり、米軍検閲下にあった青年団の運動方針や群島各地区の活動状況、文芸活動の実態のほかに、奄美および沖縄群島の政治・生活・文化状況を知ることができる。

島々における祖国復帰運動は世界史的にみても重要な出来事であるにもかかわらず、米軍基地が存在する沖縄の動向に関心が集中し、奄美の復帰運動については、これまで十分な注目が集まってきたとはいえない。また、運動の一翼を担った奄美の『新青年』についてはその価値が問われてきた経緯があるものの、沖縄の『沖縄青年』は今日までほとんど注目されてきておらず、当時の青年団の実態を把握する上でも資料的価値は高い。さらに、忘れてはならない同時代的な動きに沖縄産業開発青年隊の創設がある。米軍基地建設と土地接収により働く場を奪われた青年たちを「移民青年隊」として海外に送出してきた沖縄産業開発青年隊は、機関紙『青年隊だより』を発行した。これは経済的自立と海外雄飛をめざす青年たちをどのように勇気づけ、鼓舞しようとしたのかを知る上でも示唆に富み、占領期沖縄の青年対策・青年教育の内実を知る貴重な手がかりを示している。

米軍占領期の青年たちが、奄美・沖縄の現状をどのように捉え、世界に対してなにを訴えかけようとしたのか。本資料集の刊行は、占領期の青年教育、社会教育に接近するのみならず、これまで個々独立に捉えられがちであった同時代的な奄美と沖縄の青年団運動の行方の解明に資するものである。数々の言説は、青年たちの思考と立場の多様なあり様を示すとともに、貴重な歴史を語るものである。本資料集は、戦後奄美・沖縄の歴史、青年団運動、祖国復帰運動に関心を寄せる人々に新たな発見をもたらすはずである。



社団法人沖縄産業開発青年協会 機関紙

『青年隊だより』

(一九六〇年二月～一九六一年一月)

沖縄産業開発青年協会(産青協)の機関紙。産青協は青年の自立対策として移民青年隊を打ち出した職業訓練機関であり、沖青連を中心に一九五五年に設立された。

『青年隊だより』は、機関紙『沖繩青年』の一コマムとして掲載されていたものを、一九六〇年から記事を独立させ単独で発行したものである。本紙は、一九六〇年二月の創刊号から一九六一年一月の八号までと号外を掲載する。発行許可年月日のほか、頒布に関する詳しい状況は定かではない。

紙面には、青年隊での訓練の実態や南米での移民青年隊の活躍、理事長の南米視察報告、女子青年隊の募集情報、文芸などが掲載され、海外移民をめざす青年男女にとっての重要な情報源でもあった。



→『青年隊だより』第二号(一九六〇年四月)「女子青年隊を設置」と結成式の様子が記されている。

付録 沖縄県青年団協議会 発行

『十周年記念 沖縄県青年団史』

(一九六一年)

沖縄青年連合会の結成一〇周年の節目に編集された記念誌。本誌は、沖縄戦からの故郷の再建と異民族支配を拒否して平和と民主主義を追究した青年たちの運動の記録である。編者は、中城村青年会会長および沖青協事務局局長を務めた新垣栄一氏である。

本書の内容で多くを占めるのは、総会で採択された趣意書や声明文、決議文、議事録、事業報告など、沖青連による公文書群であり、占領期青年団運動の萌芽期に触れることのできる貴重な記録群であるといえる。

青年団運動の足跡のみならず、市町村青年団および団員個々人の記録を兼ねた内容構成となっているほか、機関誌・紙が休刊していた時期やその誌面には表れていない青年団運動の実態も記されている。

本資料集では、付録として占領期の青年団のいわば通史ともいべき全六〇〇頁にもおよぶ一冊を復刻収録した。本資料集を補完する格好の一書である。

一、沖縄県青年団協議会発展年表

年代	行	事	所在地	行	事
昭和25年	五月	沖縄青年連合会創立	那覇市		
昭和24年	三月	沖縄青年連合会創立	那覇市		
昭和24年	六月	沖縄青年連合会創立	那覇市		
昭和24年	十月	沖縄青年連合会創立	那覇市		
昭和24年	十二月	沖縄青年連合会創立	那覇市		
昭和24年	一月	沖縄青年連合会創立	那覇市		
昭和24年	二月	沖縄青年連合会創立	那覇市		
昭和24年	三月	沖縄青年連合会創立	那覇市		
昭和24年	四月	沖縄青年連合会創立	那覇市		
昭和24年	五月	沖縄青年連合会創立	那覇市		

→「沖縄県青年団協議会発展年表」巻末には二〇頁にわたる詳細な年表も収録されている。

別冊 解説・総目次・索引

- I 解説
 - 「占領期奄美・沖縄における青年団と機関誌の関係」(山城千秋・農中至)
- II 附表
- III 付録
 - 「沖縄県青年団協議会『十周年記念 沖縄県青年団史』の位置づけ」(山城千秋)
- IV コラム
 - 米軍占領下における琉米文化会館への視点 (藤澤健一)
- V 総目次 (近藤健一郎)
- VI 索引 (山城千秋・農中至)

◎原本提供(敬称略)

奄美大島教育会館維持財団(松田清文庫)、沖縄県青年団協議会、沖縄大学図書館、沖縄県立図書館、沖縄県教育庁文化財課資料編集班、鹿児島県立奄美図書館、鹿児島県立図書館、那覇市歴史博物館、法政大学沖縄文化研究所、村山かつ江、翁長良明



『新青年』第6号表紙カット

軍事占領・異民族支配と闘った

記録としての青年団機関誌

上野景三（西九州大学教授）

第二次世界大戦後、奄美大島を含む北緯三〇度以南の南西諸島は、アメリカの直接占領下に置かれ、占領政策と闘いながら復帰運動が取り組まれたことは知られているところである。だが、沖縄の復帰運動の闘いについては知られているが、奄美の復帰運動については、一九五三年という早い段階で復帰したことから、その役割や意義についてはあまりよく知られていない。

奄美群島が早く復帰できたのは、アメリカ軍基地が少なかったことにもよるが、復帰運動が激しかったことがその主たる要因であった。その復帰運動の幕を切って落としたのが、名瀬市連合青年団であった。ここに収録されている『新青年』は、復帰運動の理論的支柱ともなった青年団の機関誌であった。

奄美大島の青年団活動は、一九四六年ごろから敗戦後の島の復興への取り組みと文化活動から始まる。ところが一九四九年のアメリカ軍政府による食糧三倍値上げ問題と軍放出物資をめぐる汚職問題は、島民の生活を根源まで脅かすものであった。これらの諸問題に対して、奄美の青年団は、食糧値上げ反対運動と不正追求の先頭にたったわけである。島民の生活苦を代弁してくれる組織が青年団であった。

この延長線上に復帰運動がある。青年団として軍事占領による異民族支配、つまり祖国復帰を問題にせざるをえなかったわけである。復帰運動の先頭に青年団が立つことは、占領軍の弾圧、つまり投獄・重労働と闘うことであった。戦後の青年団史上、これほど権力と対峙した例は、他に類を見ない。これらの経験が沖縄の青年団運動に伝播する。その記録が、ここに収録されている。

想像力を広げる青年運動の復刻資料

平良研一（沖縄大学名誉教授）

この度、米国占領下の沖縄・奄美の青年運動や諸活動の実態を知ることの出来る貴重な記録・証言等の復刻資料が出版されることは、それが単なる占領期の若者集団の記録ではなく、戦争という悲惨な体験を挟んで展開された組織的で意識的な青年運動の多様な記録であるという意味で貴重な企画と言えよう。

この復刻資料は、確かに米占領期における膨大な経験の一端を伝えるものであるかもしれない。しかし、それは読む人の想像力を掻き立て膨らませる内容を秘めている。悲惨な沖縄戦後の生活をめぐる活動、それにまつわる苦悩や希望、そして頻発する米軍による事件、事故から住民を守るために身を挺して闘ったことなど、これらの苦難に果敢に対峙したのは地域の青年団であった。また一方で、青年組織とは別であるが、米軍基地に侵入し「戦果」（米軍物資の窃盗）を挙げる義賊的な青年達がいたことも事実として語られている。

青年団運動では特筆される祖国復帰闘争は、理不尽な米軍支配から脱却し、民主主義と平和憲法の下へ帰る願望であった。これは「辺野古」に象徴されるように今も重い課題であり続けている。米軍支配への激しい抵抗運動の一方で、琉球伝統芸能の掘り起こし、収容所の中から住民を鼓舞する力強い文化活動も青年団が創造したものであった。また復興への拠点の一つとして「産業開発青年隊」の存在も忘れてはならない。それは産業活動だけではなく、ブラジル、アルゼンチンなどへの移民事業を担い、それが同時に米軍の強制土地接収によるものであることは沖縄の特異性を表わしている。

このように、復刻資料は、勿論過去の出来事の単なる記録ではなく、現在の沖縄・奄美（琉球弧）の問題性を提示する興味深い資料集となっている。

『新青年』は奄美青年の青春の記憶

崎田かづ子（奄美大島連合青年団元事務局員）

このたびの『新青年』復刻出版に、当事者の一人として感謝と喜びでいっぱいです。一九五〇年に機関誌の充実と販路拡大のために、知人の勧めで青年団事務局に勤めることになり、事務局長の実隆三氏と、後に夫となる編集・発行責任者の崎田実芳とともに任務にあたりました。私たちの『新青年』は、軍政府の監視下に置かれながらも、青年たちが意気軒昂として祖国復帰、民主主義そして平和を主張できる唯一の媒体でした。

本誌は、青年団をはじめ婦人生活擁護会、労働組合など幅広い読者を持ち、沖縄や本土にも郵送していました。本誌をブラジルで読んだという便りを沖縄の読者が知らせてくれたことは、編集者の崎田には深く印象に残ったようです。

当時、二十歳前後の私たち青年団は、機関誌や祖国復帰運動を介して、社会や政治情勢について学んだものです。仕事の後、女子青年で集まり、ボール紙のメガホンをつくって「三条撤廃・祖国復帰」を夜の街で呼びかけたり、笠利村での立法院議員の不正・やり直し選挙では、遠路トラックに乗って応援に出かけたりしました。また、米軍によって集会の制限があるなかで、青年団で集まっては、ぬやまひろし『恋愛交誼』やゴリーキー『母』をテーマに熱く語ったり、高千穂神社での断食集会では、集会の合間に崎田が尾崎秀実の『愛情はふる星のごとく』を読んで聞かせてくれたりと、今でも仲間の顔が懐かしく思い浮かびます。

こうした占領下の青年たちの島を愛する情熱が『新青年』には込められており、同時に私たちの青春の記憶が刻まれています。この復刻が、記録保存されるだけでなく、現代の青年たちにも読まれることを切に願います。

編集復刻版

占領期奄美・沖縄の青年団資料集

全4巻・付録1・別冊1

収録一覧

巻・体裁	収録内容（発行年月）
第1巻 B5判・上製	『新青年』（奄美大島連合青年団 機関誌） 第4号～第13号（1950年8月～1951年9月）
第2巻 B5判・上製	『新青年』（同上） 第14号～第25号（1951年11月～1953年7月） 『青年奄美』（奄美大島連合青年団 機関誌） 創刊号（1953年12月）
第3巻 B5判・上製	『沖繩青年』（沖繩青年連合会 機関誌） 号外第1号～第4巻第1号（1949年4月～1953年3月）
第4巻 B4判・上製	『沖繩青年』（沖繩県青年団協議会 機関紙） 第2号～第15号（1957年10月～1960年6月） 『青年隊だより』（沖繩産業開発青年協会 機関紙） 創刊号～第8号（1960年2月～1961年11月）
付録 A5判・上製	『十周年記念 沖繩県青年団史』 （沖繩県青年団協議会、1961年）
別冊 A5判・並製	解説・総目次・索引 解説（山城千秋・農中至）／附表／付録（山城千秋） ／コラム（藤澤健一・櫻澤誠）／総目次（近藤健一郎） ／索引（山城千秋・農中至）

総約1,900頁

●編・解説者

山城千秋（熊本大学教授）

農中 至（鹿児島大学准教授）

●著者

藤澤健一（福岡県立大学教授）

櫻澤 誠（大阪教育大学准教授）

近藤健一郎（北海道大学教授）

●価格

全6冊セット（分売不可）

揃定価110,000円

（揃本体100,000円＋税10%）

ISBN 978-4-8350-8529-6

※別冊のみ分売可

定価2,200円（本体2,000円＋税10%）

ISBN 978-4-8350-8800-6

●推薦

上野景三（西九州大学教授）

平良研一（沖縄大学名誉教授）

嶋田かづ子（奄美大島連合青年団元事務局員）

2024年7月刊行

【復刻版】関連書籍のご案内

『文教時報』全18巻・付録1・別冊1

- 編・解説 藤澤健一・近藤健一郎
- 体 裁 A4判・B5判・A5判／上製／総9,964頁
- 揃定価 431,200円（揃本体392,000円＋税10%）
- 刊 行 2017年9月～2019年12月配本完結

『沖繩教育』全39巻・別冊1

- 編 集 『沖繩教育』復刻刊行委員会
- 解 説 藤澤健一・近藤健一郎・梶村光郎・三島わかな
- 体 裁 B4判・A5判／上製／総13,966頁
- 揃定価 627,000円（本体価格570,000円＋税10%）
- 刊 行 2009年11月～2015年6月配本完結

編集復刻版

『占領期の奄美・琉球における 教員団体関係史料集成』

全7巻・別冊1

- 編 集 藤澤健一・近藤健一郎・櫻澤誠・高橋順子・戸邊秀明
- 解 説 他 藤澤健一・近藤健一郎・櫻澤誠・高橋順子・戸邊秀明・田中萌葵
- 体 裁 A4判／上製／総2,444頁
- 定 価 215,600円（本体価格196,000円＋税10%）
- 刊 行 2015年12月～2016年7月配本完結

振替口座
東京都市大学
〒112-0005
東京都文京区水道2-10-10
F A L 00316002400829400854
T E X 0355998116770004
〒112-0005
東京都市大学
東京都文京区水道2-10-10

不二出版

表示価格はすべて税込